

1 プラネタリウム



しし座流星群の流星と流星痕（2001）



ヘール・ボップ彗星（1997）

● 私たちと宇宙

世紀の変わり目の10年ほどの間に、天文学の世界は大きな飛躍を遂げました。宇宙空間に打ち上げられた望遠鏡や、地上に建設された巨大望遠鏡群、惑星間を飛行する探査機が、宇宙の謎を解く情報を次々にもたらしました。スーパーコンピュータを用いた理論的な研究も進み、私たち人間の、宇宙に関する知識は一気に増大したといえます。いっぽうで、平塚も含め、日本の都市部では星が見えなくなってきました。おもにそれは、街灯など夜間の市街光が空に拡散し、星の光を埋没させてしまうためで、これを光公害と呼ぶこともあります。七夕の街平塚でも、天の川はほとんど見られなくなりました。

● プラネタリウムの投影内容

プラネタリウムは、星空を再現する装置です。技術的には、星の配置や運動を再現するものですが、都市部のプラネタリウムには、失われた星空の美しさを再現する機能も求められています。また、増大する宇宙情報を逐次解説し提供する機能も求められ、備えてきました。

プラネタリウムはまた、解説者の存在によって、単なる装置ではなく、宇宙を表現し、それを楽しむ「場」として機能します。平塚市博物館では、毎回学芸員が肉声解説にあたり、その日その日のニーズに合わせ、鮮度の高い情報を提供しています。投影は、当日の夜の星や星座の案内とテーマ部の二部構成です。テーマ部では、最新の宇宙情報や彗星出現など時事的な星空の話題から、情趣豊かな星座物語まで、内容を定期的に更新してお送りします。ホームページや広報などであらかじめご覧になり、興味のあるテーマを見逃さないようご利用下さい。